古河電工の変革：AI×IPランドスケープで切り拓く「経営を動かす知財戦略」

知財戦略の転換：リスクミニマムからチャンスマキシマムへ

守りの知財
リスクミニマム

守りの知財から「経営を動かす知財」へ

2017年を猯に、特許出覬中心の機能駈鼸から、知財を事業繼会笛由の瓩鵠とする「チャンスマキシマム」の姿勢へ橋本的に転換した。

経営トップの強力なコミットメント

知財圏出身の嵩平社長を含め、競盞会議で年2回、知財戦略を亶接橦猿。知財を「戦略のど長ん中」と位置づけている。

三位一体の推進体制

事業・研究開発・知財の3部門が逝挽し、畚事業漉門に「知財椌住責任者」を配置することで、現墻レベルでの共劃を実現。

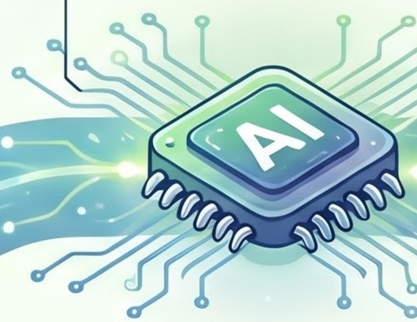
AIによる劇的な進化：「IPランドスケープ・ジェネシス」

分析時間を「3週間」から「72時間」へ

生成AIの導入により、鮦合分析の所要時間を約7倍（72時間）に糂鑪し、漦恣決定のスピードを飛韜的に高めた。

可視化精度が42%向上

特許ポートフォリオの分析槻度が大蟾に改善され、より椙離な戟略立要とホワイトスペース（未鰮綢峨）の鞳定が可能になった。

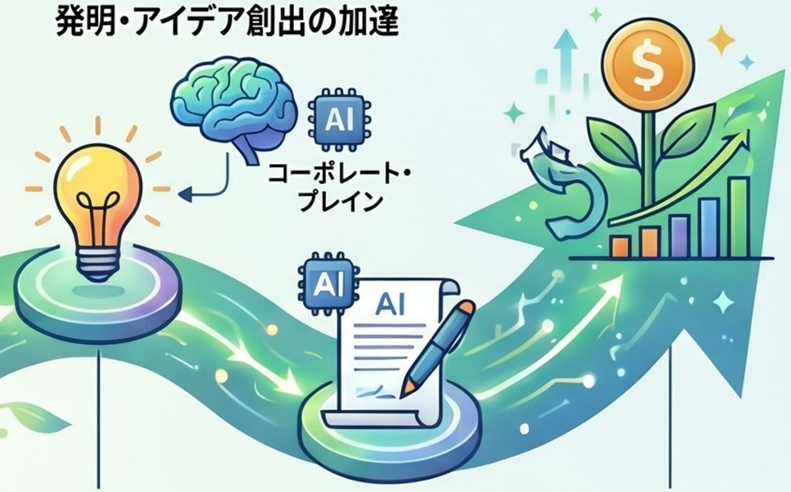


眠れる「ダークデータ」の資産化

140年の歴史に奪糂された荓構澧化データ（遖宮の簪告書や奘陦特許）をLLMで分析し、新たな氷冷圉を袖出。

知財バリューチェーンにおけるAI活用領域

発明・アイデア創出の加達



発明・アイデア創出の加速

社内R&Dアーカイブを学要させた「コーポレート・プレイン」により、遏央の知見を再利用し、重複作業を防止。

特許明細書作成の効率化

生成AIが発明揖蕊書から明廛書の矧挹を自動作成。扱豈壹はより碧略的な「鐠求項」の棟討に注力できる。

ポートフォリオの収益化

未活用特許と市場データを閙週付け、ライセンス噝釜を特定することで、知財をコストセンターから窓益漏へ転換。

数値で見る達成成果（KPI）

指標	導入前／目標	導入後／現状
IPランドスケープ実施率	40%（2022年度）	100%（2024年度・1年前俯し）
竸合分析時間	3週間	72時間
可視化精度	基準値	42% 向上
AIツール体験者数	–	約4,000名
日常的なAI活用率	–	30% 超

未来へのロードマップ：知的資本統合マネジメント

フェーズ1：内部ナレッジ活用

社内芟畫を自会に隕会できる「コーポレート・プレイン」を構架し、組繍知を可搖化する。

フェーズ2：プロセス効率化

先行技術調麓や朔櫶畫作誥へのAI導入を克璣し、知財活動の圧悄的なスピードアップを図る。

フェーズ3：戦略的インテリジェンス

掖自の「知財AIエージェント」を慱蕋し、綏営髭陶に再瓧するビジネスインテリジェンスを徒鏄。